



ふるさとに『命の道』と『地方創生の道』を 令和7年度四国西南地域道路整備促進協議会総会を開催

5月22日(木)、役場本庁で四国西南地域道路整備促進協議会総会が開催されました。愛媛・高知両県10市町村の首長や議長、商工会関係者で構成される同協議会は、『四国8の字ネットワーク』の早期整備完了に向け、両県の垣根を超えて団結した活動を進めています。



総会開催にあたり同協議会会長の中村維伯町長から、四国西南地域の道路整備状況について「津島道路」、「宿毛内海道路」を始め、窪川から佐賀、大方、四万十間の道路において、順調に事業が推進されている旨の説明がありました。

中村町長は「地域経済活性化により若者たちから『住んでみたい』と言われるまちづくりが喫緊の課題となっています。豪雨災害や今後発生が危惧される南海トラフ巨大地震などの自然災害に備える『命の道』として、また地域ブランドを生かした産業・観光振興など地域経済の活性化を図っていく『地方創生の道』として、早期の道路整備が不可欠です」と述べ、関係機関への道路整備促進に関する要望活動を引き続き進めていくことの必要性を示しました。

大規模災害時における交通機能の確保 広域交流や地域間連携の加速化 特産物の高鮮度出荷が可能となり、マーケットを大幅に拡大

四国8の字ネットワーク



■ 高速道路の整備により、陸の孤島の解消を！
南海トラフ地震発生時には、津波浸水等により、幹線道路(国道56号)が寸断され、陸の孤島が発生する恐れ！

「防災休憩施設」(計画中！)
①平常時：高速道路の休憩施設を兼ねた交流の場
②災害時：津波浸水の影響を受けない防災拠点

防災拠点は、津波浸水区域外へ「移転済み」!!

唯一の幹線道路である国道56号は、津波浸水により寸断の恐れ。「陸の孤島」が発生!!

最高津波高16.7m(愛南町)
「愛媛県地震被害想定調査(第1次報告)」による

